日本防水工法開発協議会 冬季研究開発会議

エアードライエ法 PR戦略

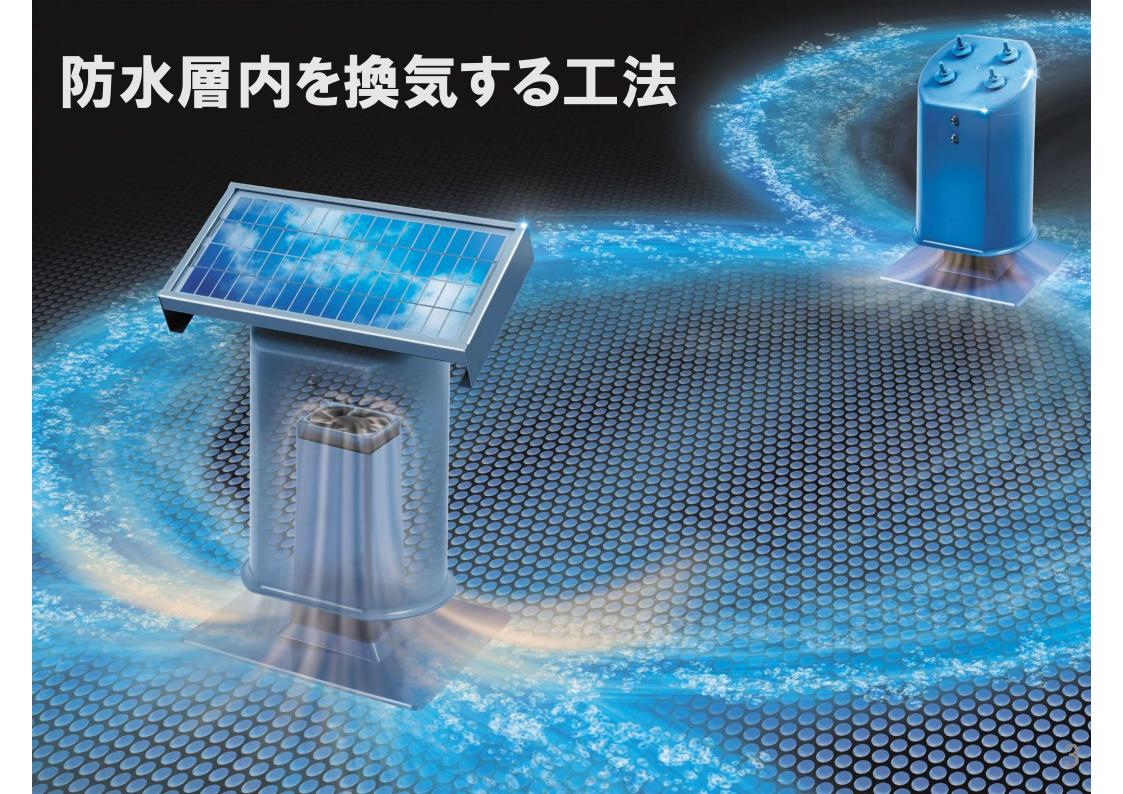
(エアーコントロール工法)

2023年2月24日 アーキヤマデ株式会社 横浜営業所 笠原 武晃



- 1. エアードライ工法とは
- 2. 米軍施設採用事例
- 3. その他採用事例
- 4. エアードライPRのポイント
- 5. 採用側のメリット
- 6. 施工側のメリット





- 1. エアードライエ法とは
- 2. 米軍施設採用事例
- 3. その他採用事例
- 4. エアードライPRのポイント
- 5. 採用側のメリット
- 6. 施工側のメリット







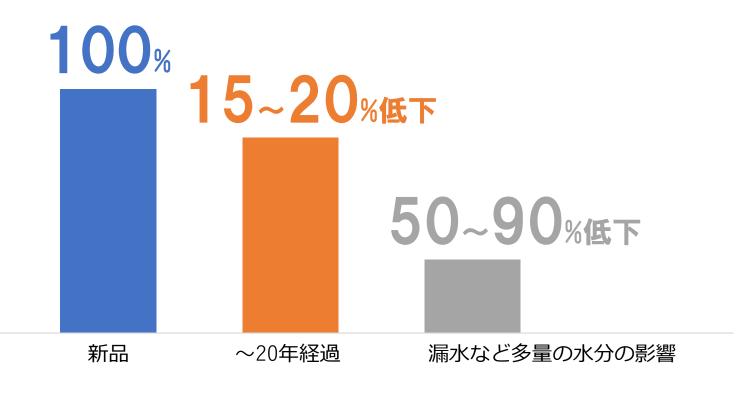
なぜ採用された?

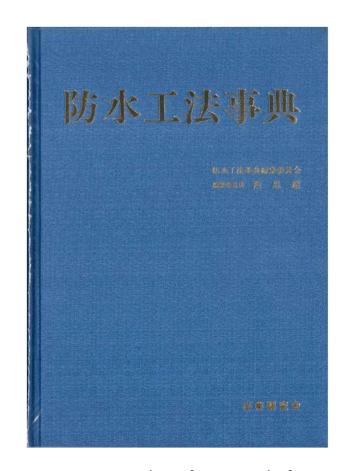
Point 1 断熱材は内部結露の影響で 性能が低下する

Point 2 断熱材は蓄熱する

Point 1

断熱材は内部結露の影響で 性能が低下する





昭和56年(1981年) 産業調査会 発刊 防水工法事典

[P. 225 抜粋]

現在一般に実用化されている断熱材は 透湿比抵抗が∞ではないから、

10年~20年もたてばこの残留蓄積水に よって初期の熱抵抗より小さくなってい ることを考えなければならない。

<u>結露対策として結露を消滅させることも</u> 1つの方法であるが、

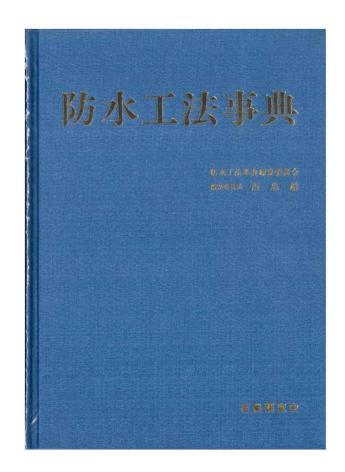
それよりも防水層の上の断熱材が 10年~20年後にどのくらいの含水に なるかを把握して、それが実用上 害のない範囲の蓄積推量内であればよい。 そしてその量に応じた断熱材の 熱抵抗減少分を断熱材の厚みを増して カバーすれば良い。スキン付き押出発泡 ポリスチレンの場合は、初期必要厚みの 15%増で良い。

Point 2

断熱材は蓄熱する

断熱材=保温板

熱を止めるものではなく熱の伝わりを遅くするもの



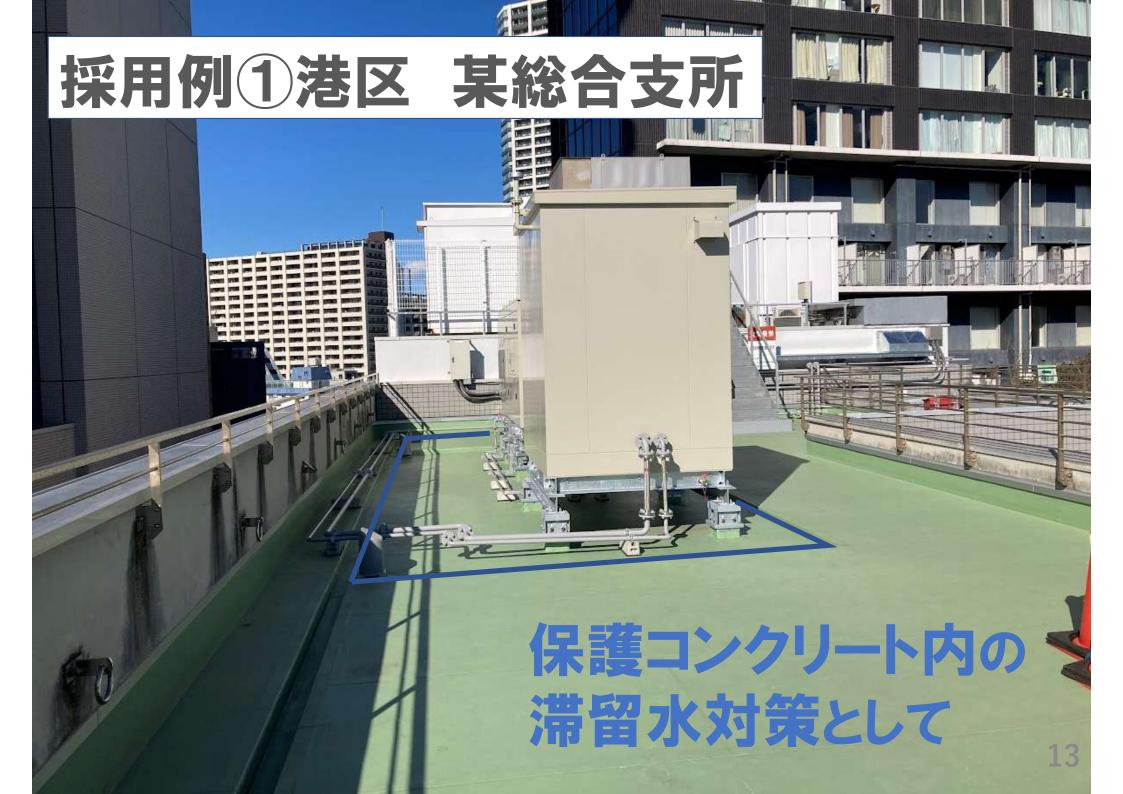
昭和56年(1981年) 産業調査会 発刊 防水工法事典

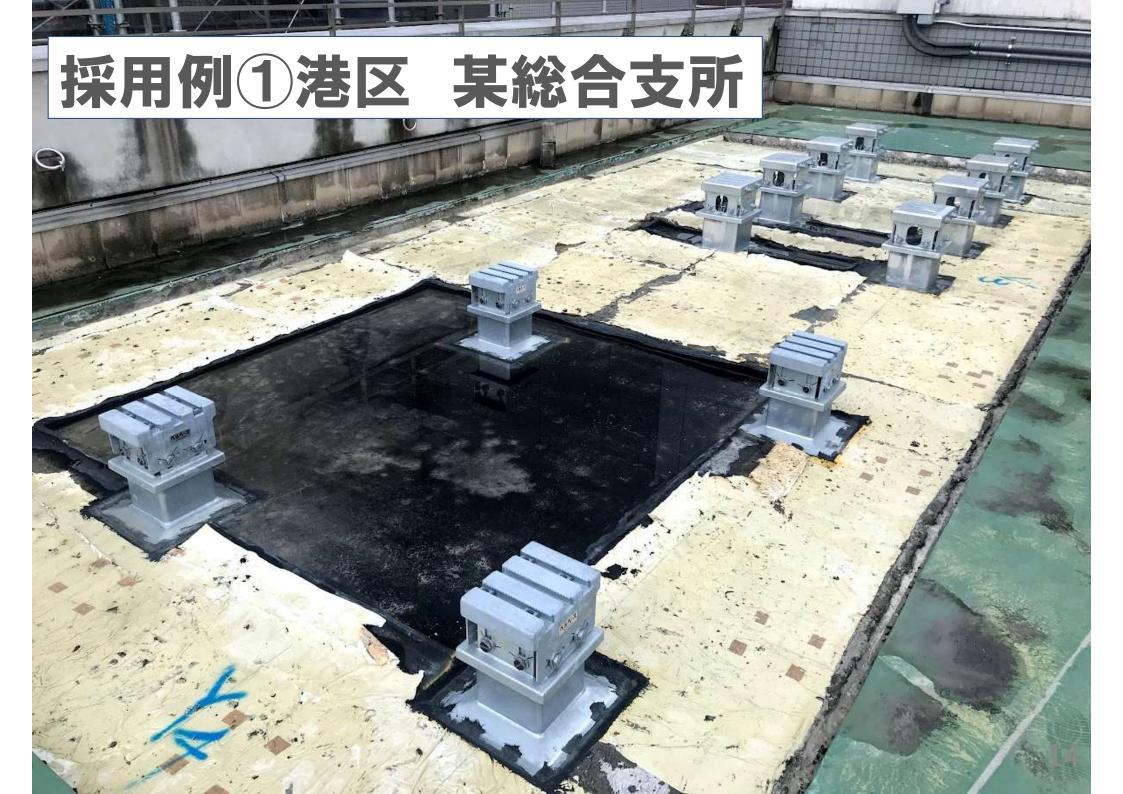
[P. 206 抜粋]

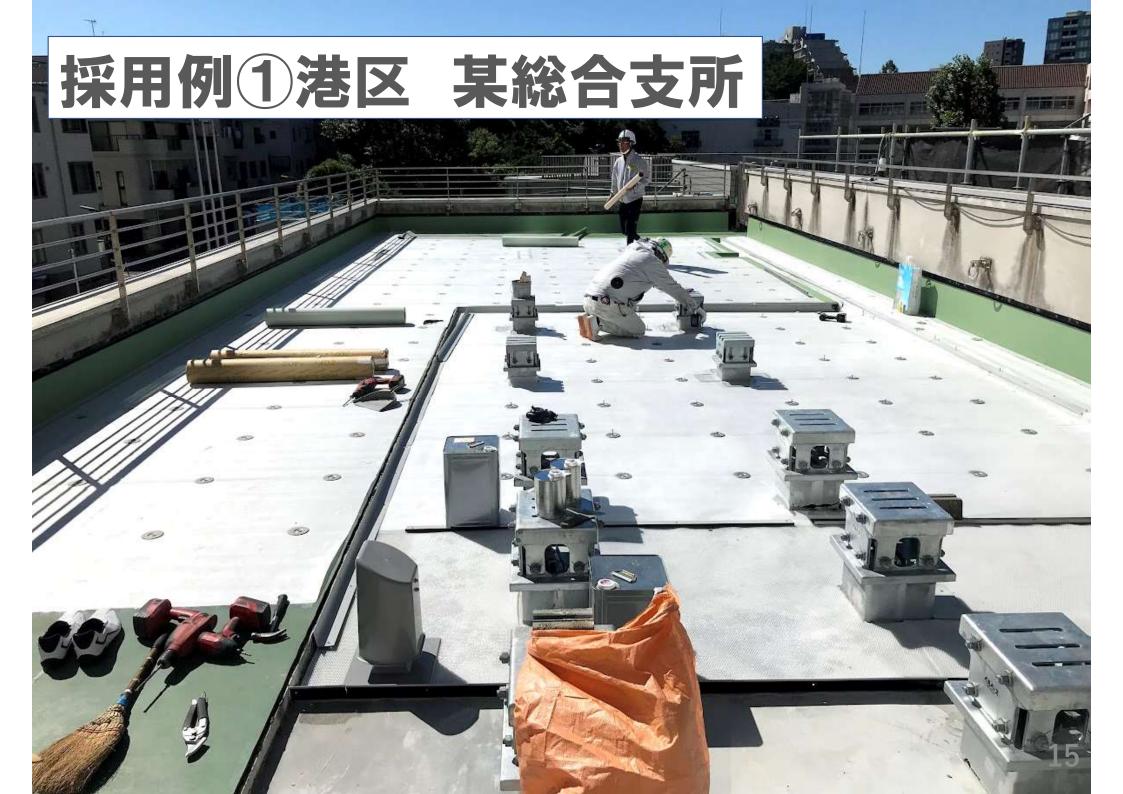
という次第で我が国の建築も地域的には 必ず断熱が必要な場所が多い。それにも かかわらず「断熱をすることは必ずしも省 エネルギーにならない」とする考えがある。 これは室内発生熱の多い建物では断熱を することで逆に冷房負荷が増大してしまう ケースがあるからである。 これは夜間など外気温度の方が室温より 下った場合に断熱があれば熱伝導によって 熱を放出しにくいのに対し、断熱がなけれ ば放出しやすいことによる。しかし このような場合に伝導によって熱を放出 するより窓を開け換気によって放出をした 方が更に効果が大きくなるのである。断熱 による省エネルギー効果を考慮する時には 単に熱伝導率だけでなく、換気の効果も含 めて総合的に判断を行わなければならない。

- 1. エアードライエ法とは
- 2. 米軍施設採用事例
- 3. その他採用事例
- 4. エアードライPRのポイント
- 5. 採用側のメリット
- 6. 施工側のメリット

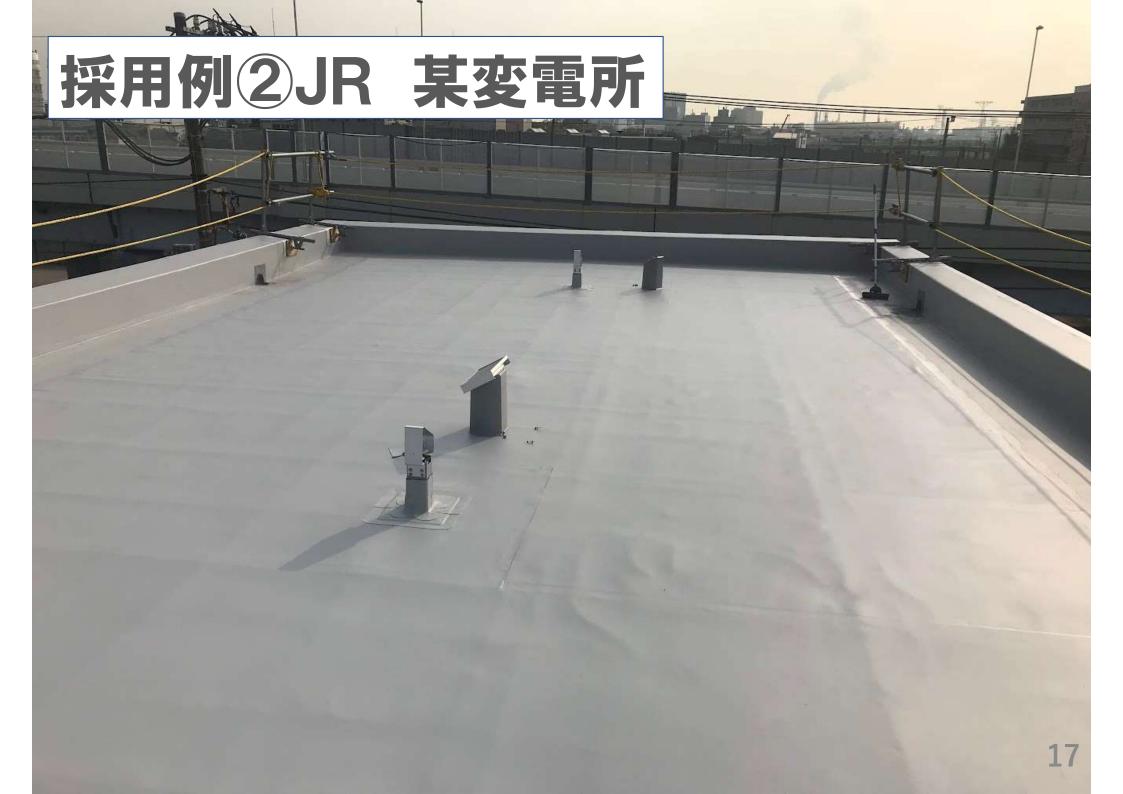














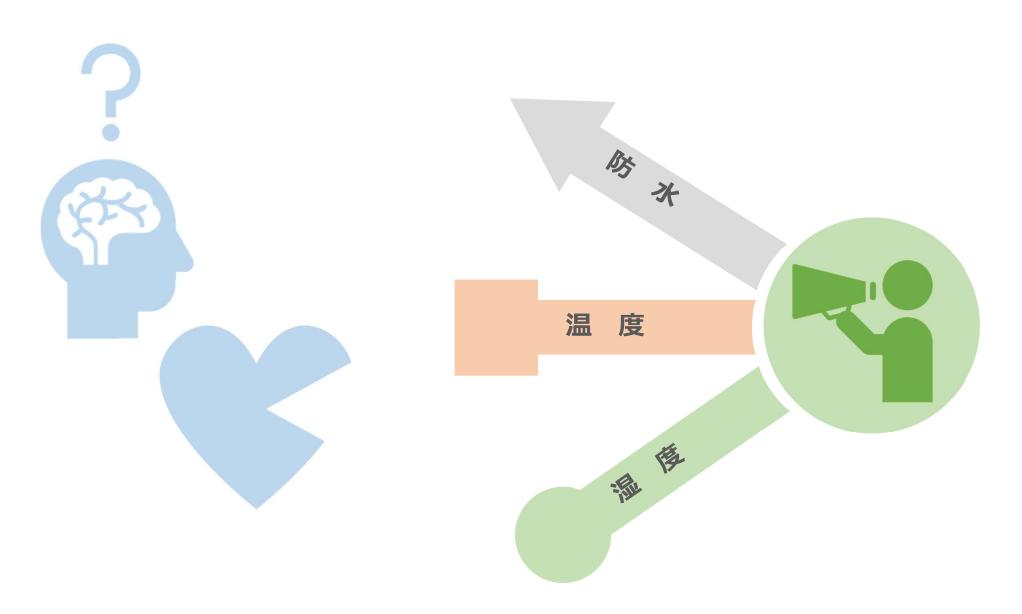




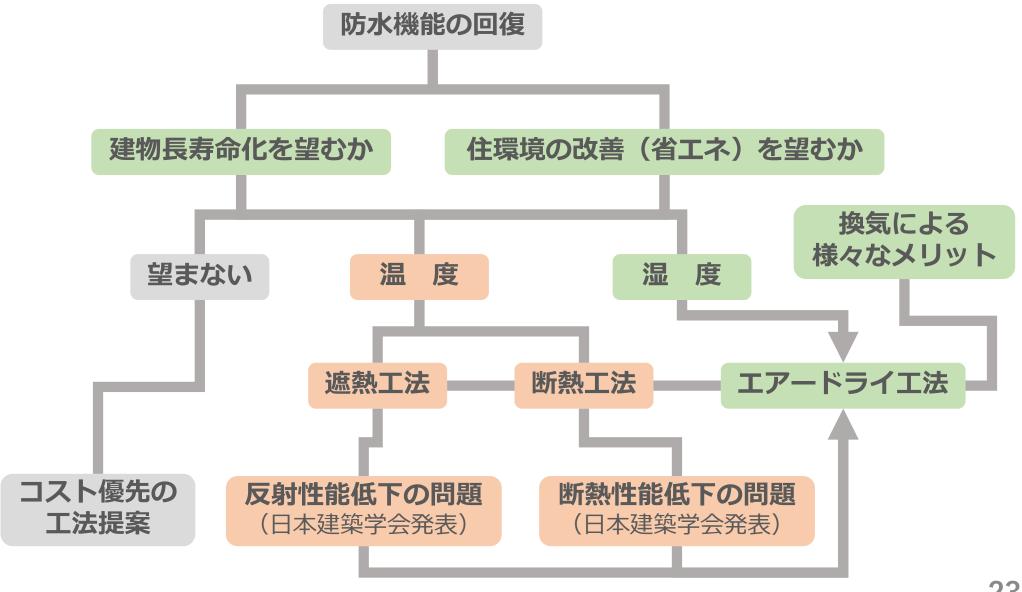
- 1. エアードライエ法とは
- 2. 米軍施設採用事例
- 3. その他採用事例
- 4. エアードライPRのポイント
- 5. 採用側のメリット
- 6. 施工側のメリット



相手が求めるものを把握する



改修案件における提案フロー



新築案件における提案フロー

屋上に求められるのは防水性能や断熱・遮熱性能だけではない

建物外皮における空気層の活用 (40年以上前から換気の重要性は示唆されてきた)

ダブルスキン構造・通気構法など外壁においては広く認知されている

人が乗ってもつぶれない通気層の開発で屋上防水にも適用が可能に

新築時にコンクリートと防水層の間に空気層を設けることが理想

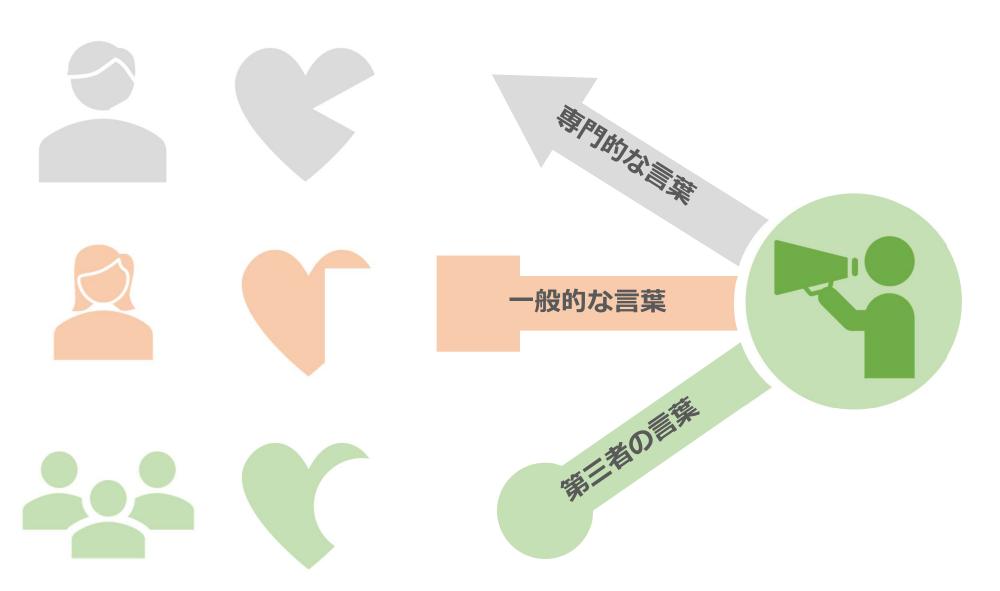
エアードライエ法

改修時にも通気層は再利用可能

リベットルーフで改修

初期コストはかかるが 建物を利用している限り その効果は持続する

相手に合わせて言葉を変える



第三者の言葉

『推薦の言葉は1000のコピーに勝る』

PR対象に近い関係の(信頼している) 人から推薦してもらうことが最も効果的

Ex. 施主←設計 設計←元請 元請←専門業者



- 1. エアードライエ法とは
- 2. 米軍施設採用事例
- 3. その他採用事例
- 4. エアードライPRのポイント
- 5. 採用側のメリット
- 6. 施工側のメリット



採用側のメリット(1)

防水層内を換気することにより

湿気を排出し結露を抑制、

建物の長寿命化が図れる

層内の温度が平準化されることにより、 断熱工法(30mm)と同等の 省エネ効果も得られる

採用側のメリット2

ドライコーン(コアコーン)敷設の 工程を追加するだけで完成

今までになかった仕組みであるが、 工法としての完成度は高く 採用リスクはほとんどない

- 1. エアードライエ法とは
- 2. 米軍施設採用事例
- 3. その他採用事例
- 4. エアードライPRのポイント
- 5. 採用側のメリット
- 6. 施工側のメリット



施工側のメリット

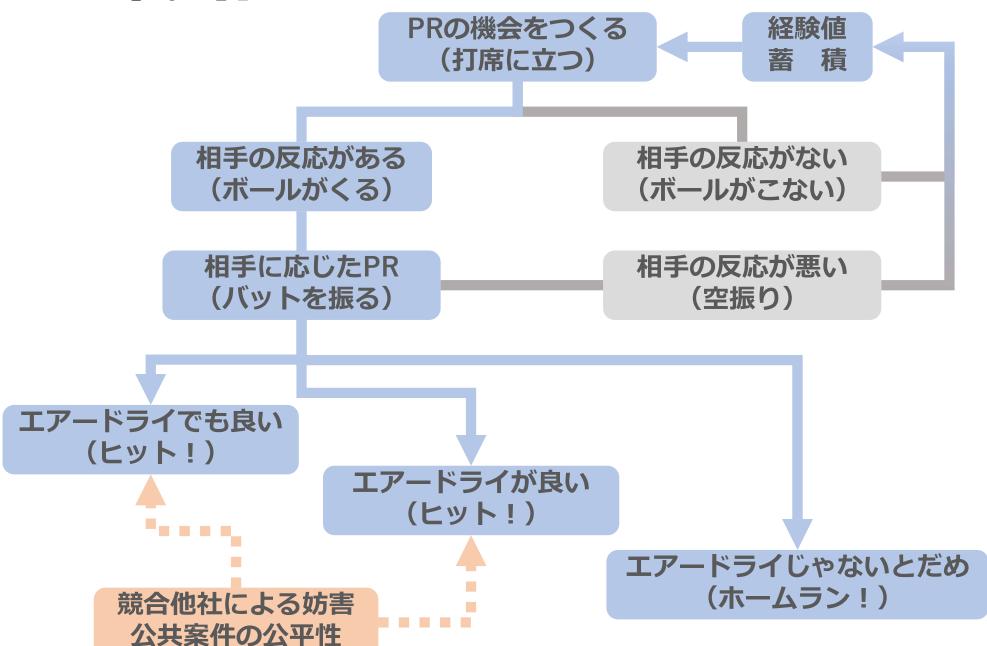
嵩張らないので楽に荷揚げができ、 省スペースで保管できる

ドライコーンは薄いので、

配管基礎などがあっても作業しやすく 施工管理における負担が少ない

指定物件は価格競争を回避できる

PR戦略まとめ



ご清聴ありがとうございました

アーキヤマデ株式会社 横浜営業所 笠原 武晃

